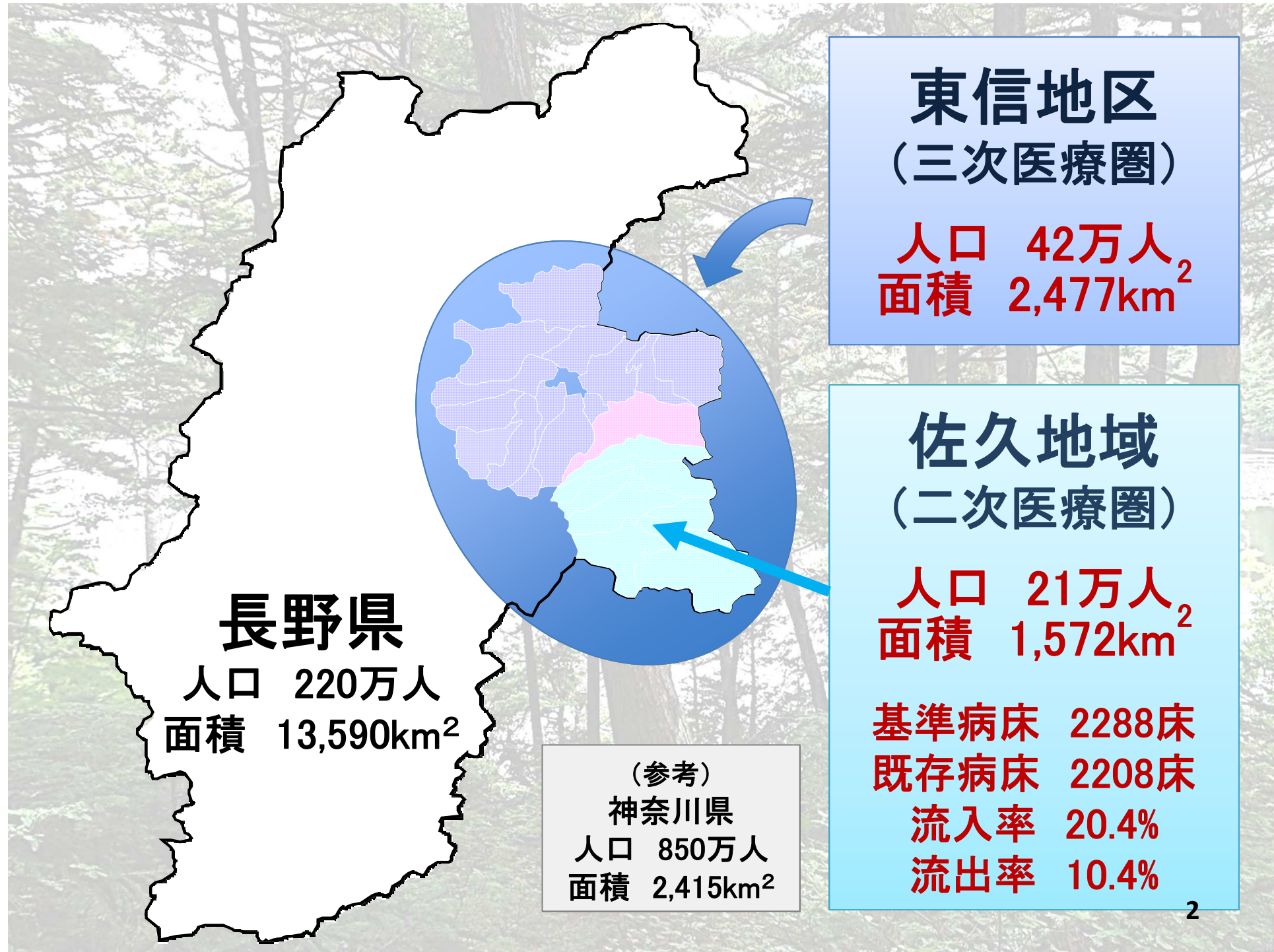


# 長野県佐久地域における 医療機能の分化・連携と当院の役割

JA長野厚生連佐久総合病院診療部長 北澤彰浩



# 佐久総合病院の概況

# 佐久総合病院の概況（機能分化前）



臨床研修(医科)指定病院

臨床研修(歯科)指定病院

がん診療中核的病院

へき地中核病院

心臓疾患基幹病院

救命救急センター

地域災害医療センター

老人性痴呆疾患センター

エイズ治療拠点病院

感染症指定医療機関

がん診療連携拠点病院

DPC対象病院

7対1看護体系

# 佐久総合病院の概況（機能分化前）

## 病床数

一般病床	665床
回復期リハ病床	40床
精神病床	112床
感染症病床	4床
合計	821床

## 職員数

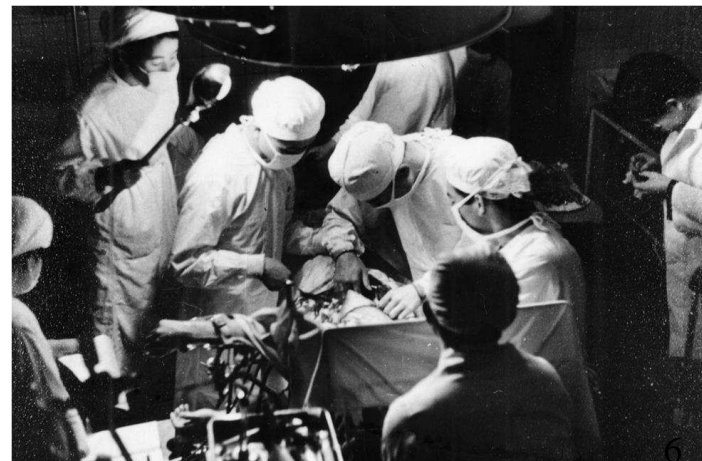
医師	195人
薬剤師	35人
看護系	802人
技術系	294人
事務系	177人
その他	210人
合計	1,713人

# 佐久総合病院の設立と発展

- 昭和19年、ほとんど医療機能のなかった長野県農村に佐久病院が設立された。



- その後、医療水準を向上させながら、「農民とともに」の理念をスローガンにして発展してきた。

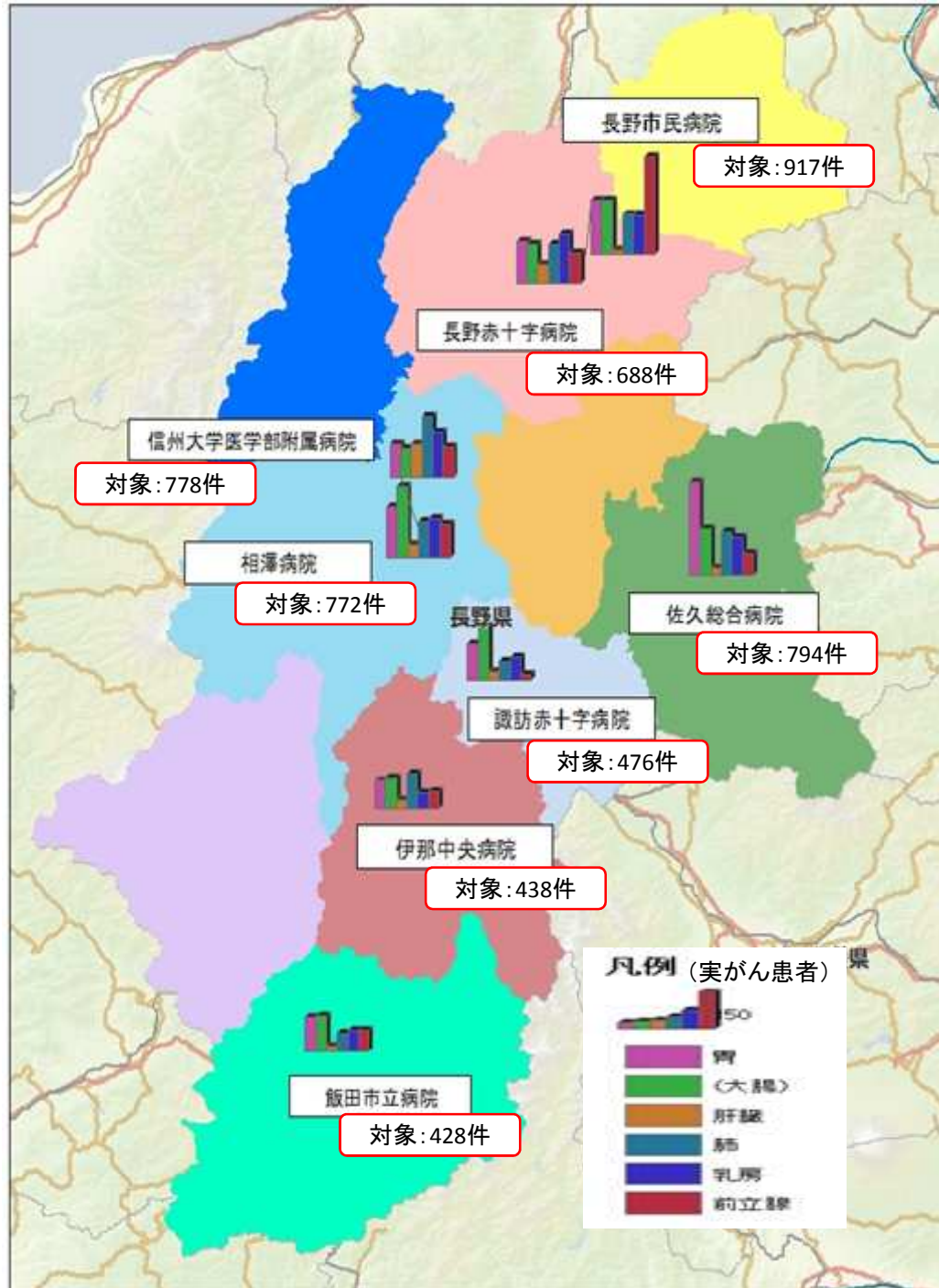


# 急性期機能の強化

- 昭和58年 がん診療センターを開設した。のちにがん診療連携拠点病院に指定。
- 平成17年、信州ドクターヘリ運行を開始した(300~350件/年)。長野県第一号(のちに信州大学に配備)。
- DMATを2チーム組織しており、東日本大震災等の災害支援にも貢献した。

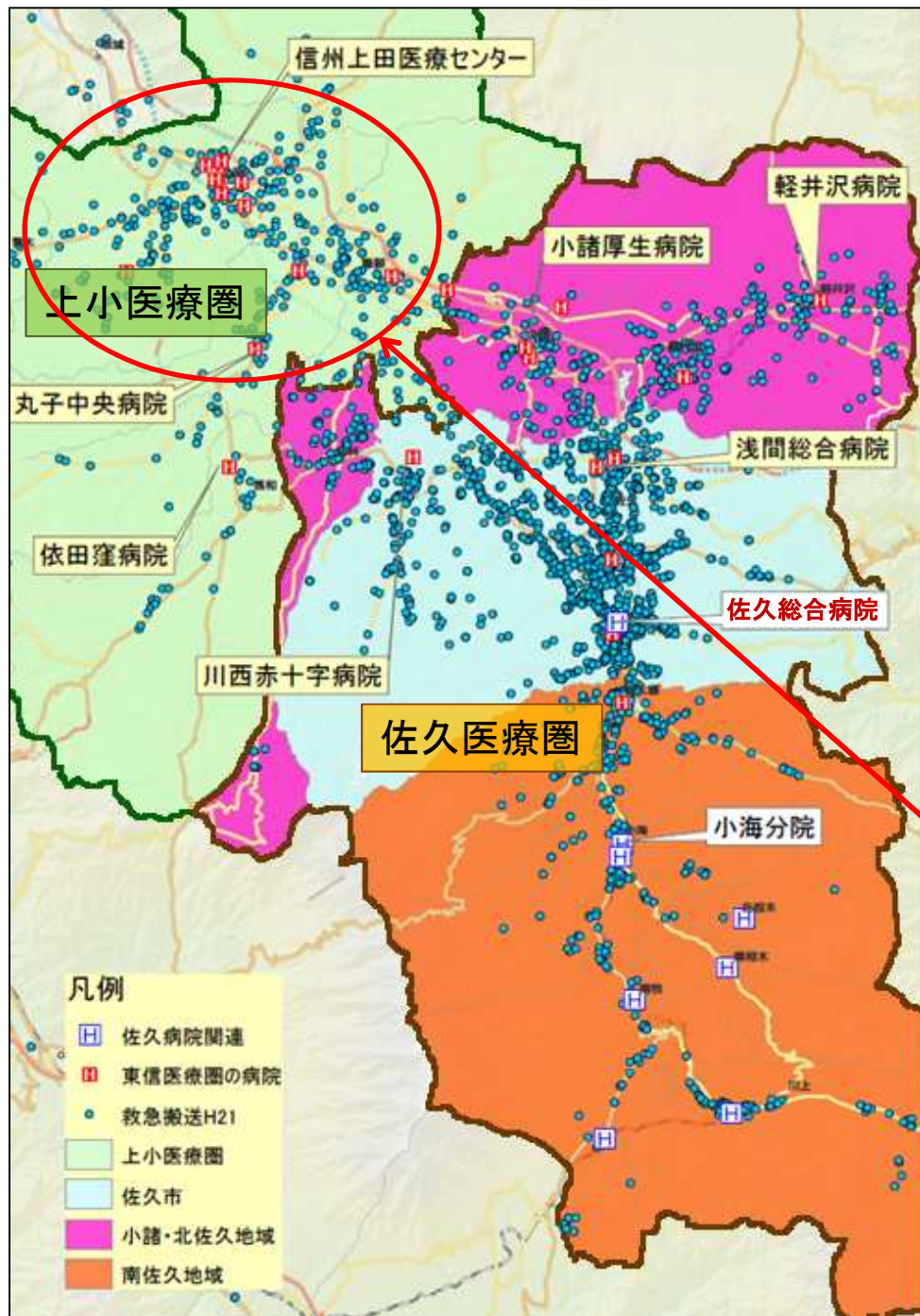


# 長野県内のがん診療連携拠点病院における部位別患者層 (5大がん+前立腺がん)



信州大学医学部 附属病院	肝臓がんへの実績 が県内最多
長野赤十字病院 相澤病院 諏訪赤十字病院 伊那中央病院 飯田市立病院	5大がんについて は同様の実績
長野市民病院	前立腺がんの小線 源治療を行っており 圧倒的な患者数
佐久総合病院	胃がんに対する内 視鏡治療を数多く 実施しており圧倒 的な患者数





## 佐久総合病院本院における救急搬送患者(平成21年度)

3,385名中2,830名について確認(83.6%)

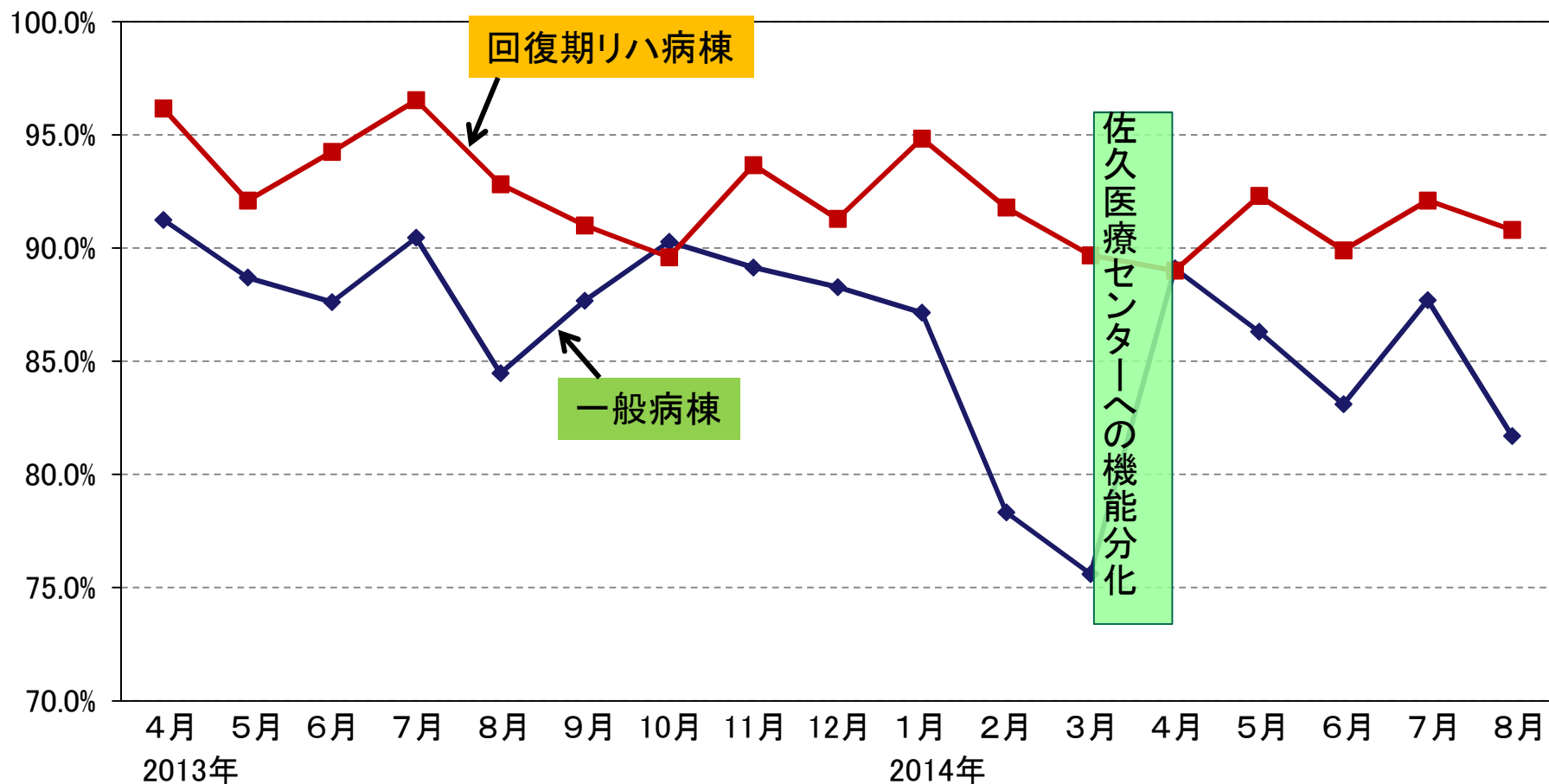
- 救急搬送のうち15.4%が隣接する二次医療圏から受け入れており、広範囲の救急医療ニーズに対応。
- 搬送外の救急患者(ウォークイン)の地域とは異なる。

医療圏		救急搬送 N=2,830	%	搬送外救急 N=18,207
上小医療圏		435	15.4	4.8
佐久医療圏	小諸・北佐久	439	15.5	9.5
	佐久市	1450	51.2	70.2
	南佐久	457	16.1	13.5

※搬送要請の場所ではなく、患者の住所地に基づく

# 病床利用率の推移（佐久総合病院本院）

- 一般病棟については、おおよそ85－90%で推移。
- 回復期リハ病棟については、90－95%で推移。



# **小海赤十字病院から 小海分院への機能転換**

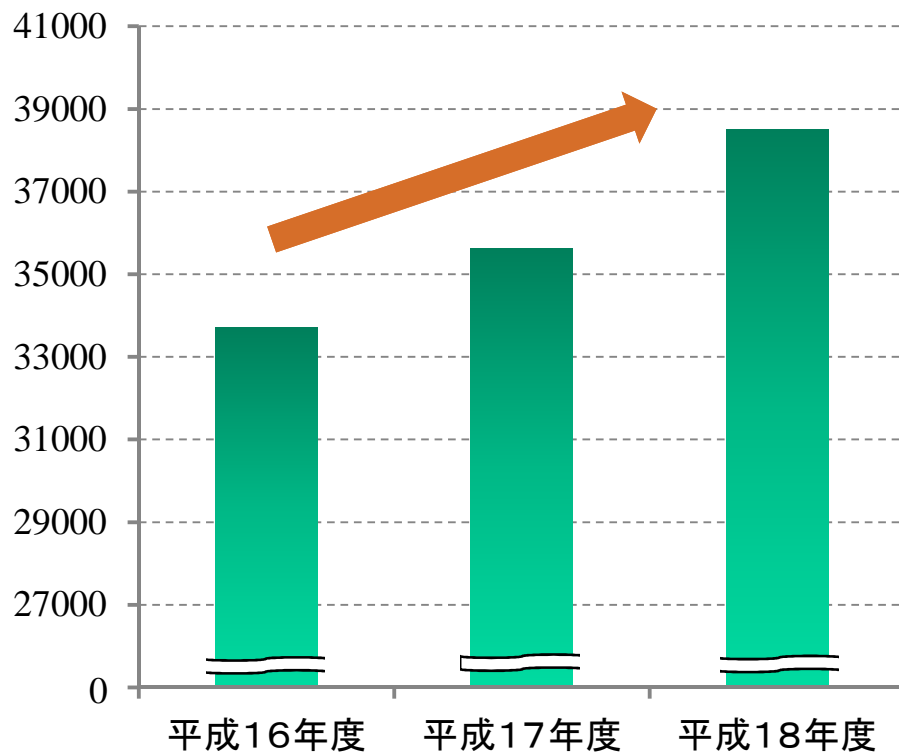
# 小海赤十字病院からの機能転換

- 南佐久地域の急性期機能を担い続けてきた小海赤十字病院の医師確保と経営が困難となった。
- その背景には、交通インフラの発達により、佐久病院に患者が流れるようになったことも考えられる。
- 平成15年、日赤から厚生連に移管し、在宅支援と回復期機能に力を注ぐ小海分院として再出発。この判断には住民の意思も反映された。
- 機能転換にあたっては、看護師をはじめ職員全員の雇用も守られた。

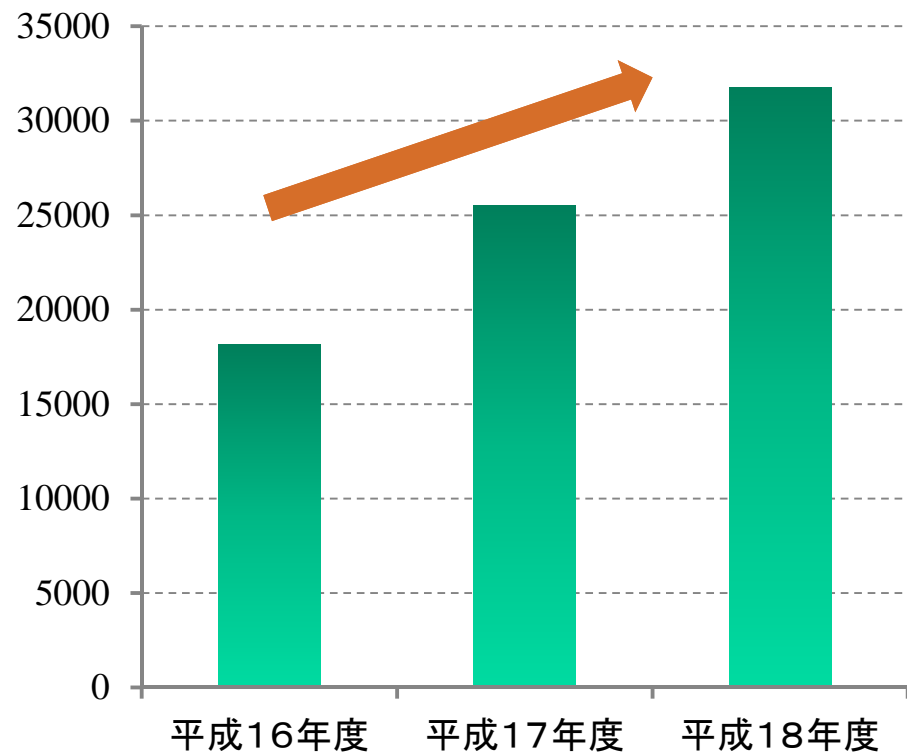


# 患者数の推移（小海分院）

○急性期から回復期へと医療機能の主軸を移行させた結果、  
外来と入院部門ともに患者数の回復を認めた。



外来患者数



入院患者数

# 機能転換前後の小海分院の概況

## 平成10年(小海赤十字病院)

病床	100床
2対1	100床

### 診療科

内科、小児科、外科  
整形外科、産婦人科

職員数	77人
医師	6人
看護師	37人

## 平成25年(小海分院)

病床	99床
10対1	50床
医療療養型Ⅱ	49床

### 診療科

内科、小児科、外科  
整形外科、リハ科

職員数	121人
医師	9人
看護師	56人

# 機能転換前後の小海分院の概況

## 平成10年(小海赤十字病院)

外来患者 52,106人

入院患者 25,991人

平均在院日数 28日

救急車受入件数 239件

年間収入 約10億円

当期利益 約1千万円赤字

## 平成25年(小海分院)

外来患者 41,187人

入院患者 31,900人

平均在院日数

10対1 23日

医療療養 140日

救急車受入件数 425件

年間収入 14億5千万円

当期利益 5578万円

# 佐久医療センターへの機能分化



# 佐久医療センターへの機能分化

○2014年3月1日、高度急性期機能を有する佐久医療センターを佐久総合病院から機能分化させる形で設立した。



○小諸厚生病院など、周辺の医療機関との話し合いを経て、高度救急のほか、外科手術などの機能の一部についても佐久医療センターへと集約させた。



# 佐久医療センターの概況

(平成26年9月12日現在)

## 病床数

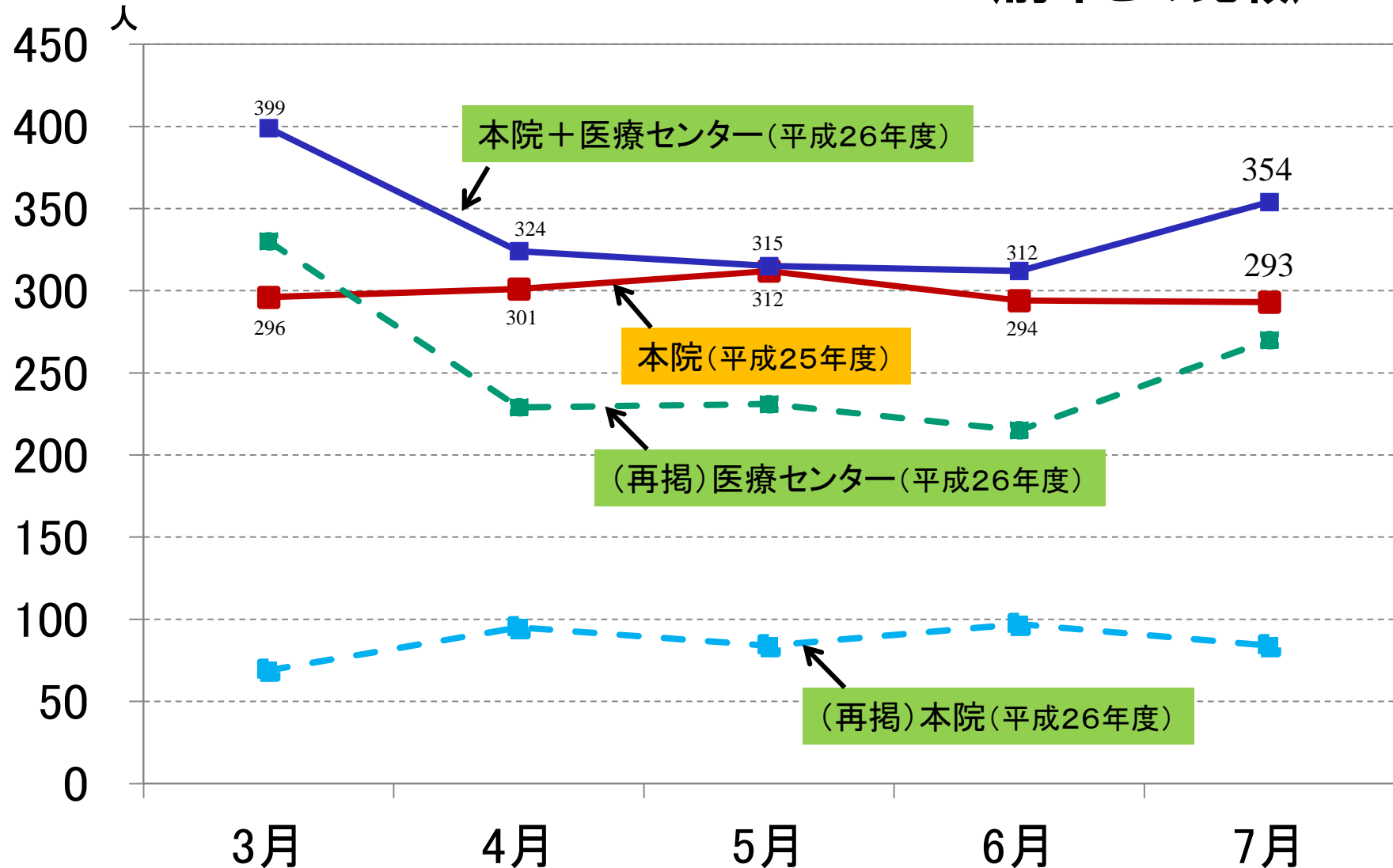
一般病床 (7対1入院基本料)	376床
救命救急病床	20床
ICU・HCU	36床
NICU・GCU	18床
合 計	450床

## 職員数

医 師	143人
薬剤師	20人
看護系	552人
技術系	141人
事務系	105人
その他	107人
合 計	1,068人

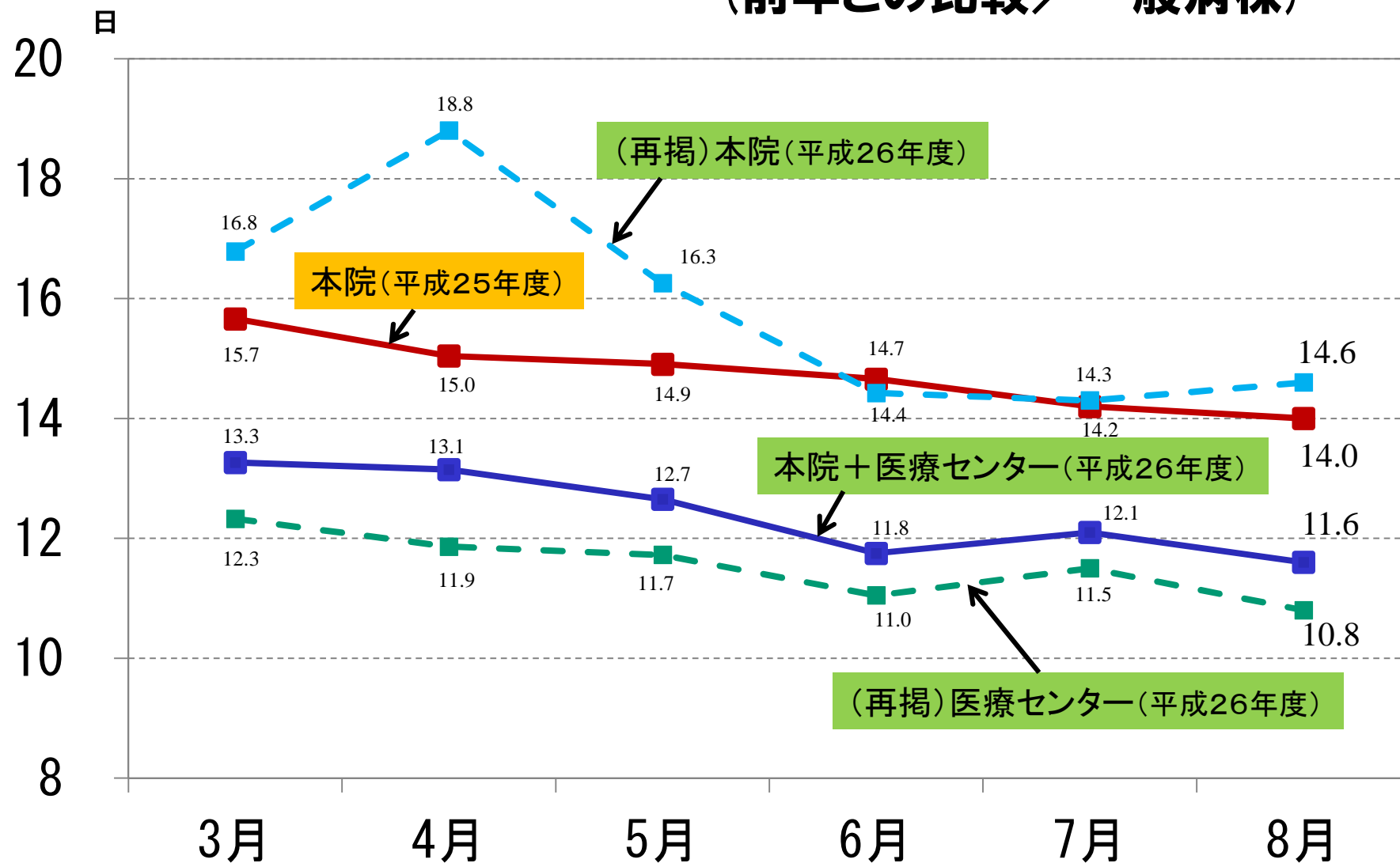
# 機能分化前後の救急搬送患者数

(前年との比較)



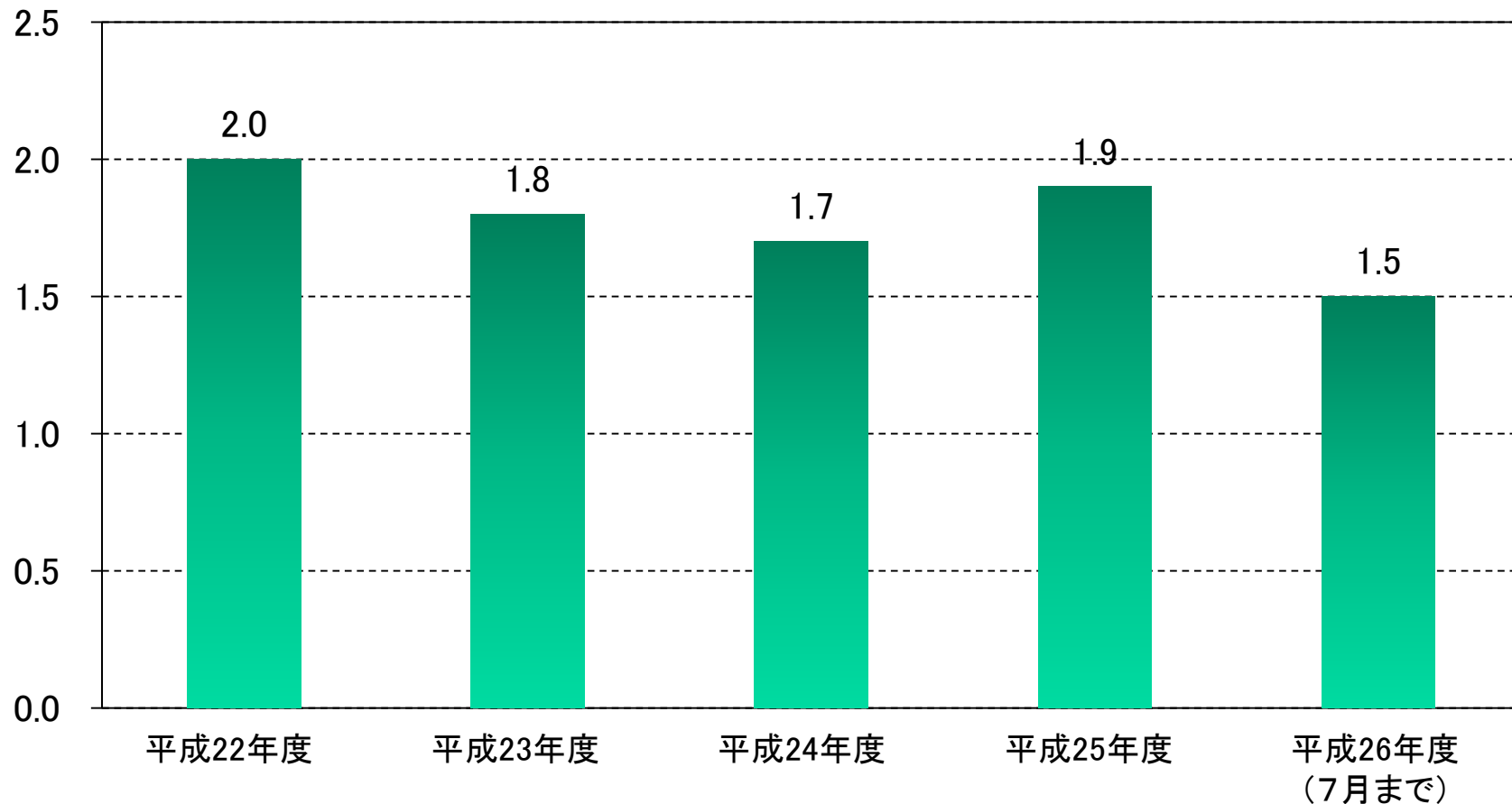
# 機能分化前後の平均在院日数

(前年との比較／一般病棟)



# 術前入院日数の推移（佐久総合病院本院）

○ 在院日数を減らす有効施策としては、術前入院日数を減らしてきたことが大きい。



# 地域との連携強化

# 地域の医療・介護との連携強化

- 診療所からの入院紹介は断ることなく、必ず受け入れる体制。
- 在宅医療のサポートは、原則として佐久総合病院本院が対応。
  - (例) 診療所が診ている在宅患者について、夜間休日のバックアップ。
  - (例) 24時間365日体制で訪問看護を支援、自宅で亡くなれる地域作り。
- 介護施設と連携を強化し、不要な救急搬送等を低減。
- 入院時にケアマネと連携し、ADLが低下しない入院加療を検討。



平成25年 11月28日(木)19時～ 佐久市役所 8階大会議室

佐久市在宅医療・介護の連携体制推進事業(佐久総合病院一部委託)



本日のメニュー



- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 【温かいお飲み物】        |                  |
| -紅茶              | -珈琲(美味しいドリップタイプ) |
| -ミルクティー          | -レモンティー          |
| 【スイーツ】           |                  |
| -Honey coco「コロシ」 | -薄煎餅             |

# 「急性期病院と介護事業者との カフェ交流会」

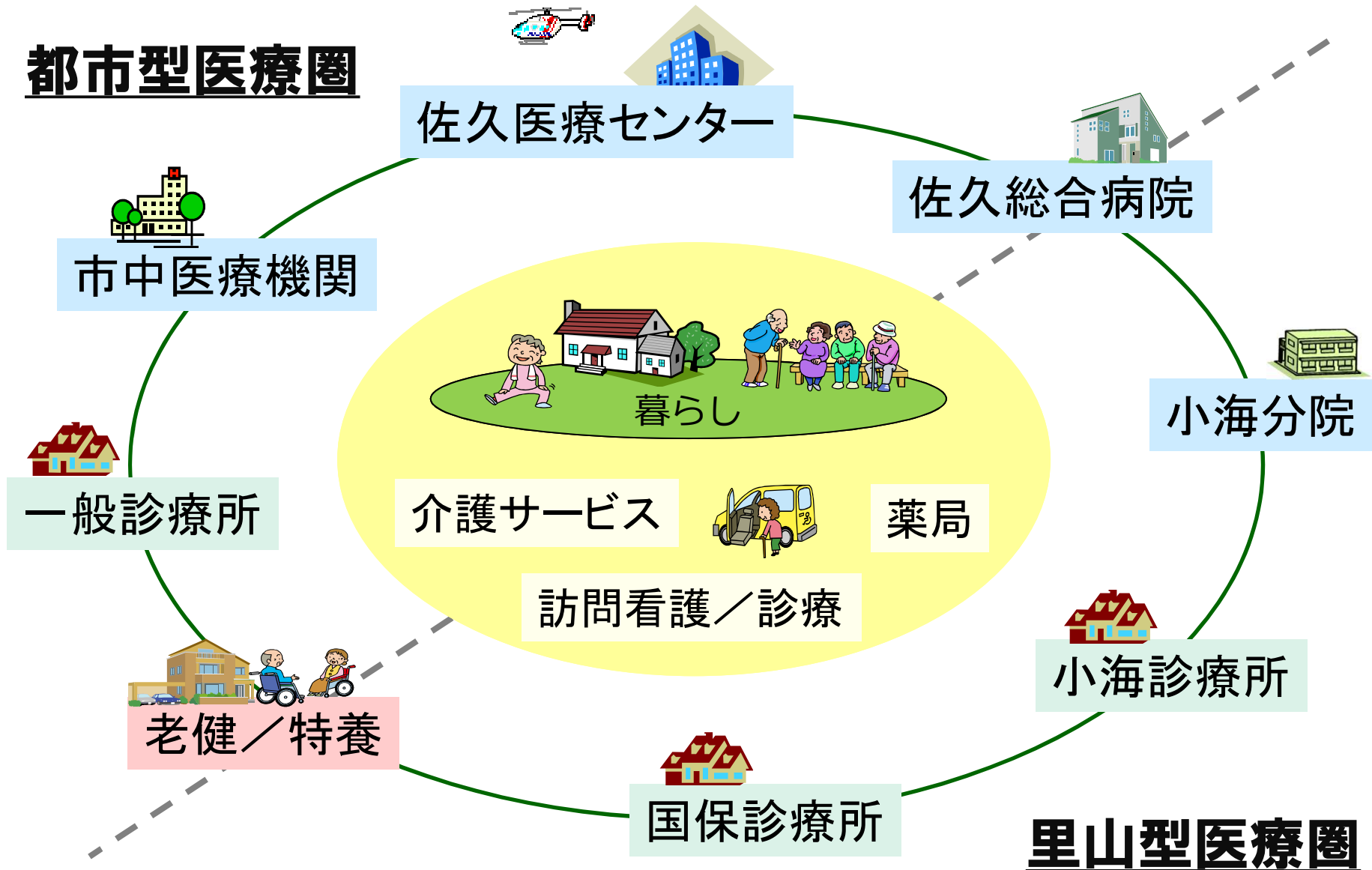


本日おいしいコーヒー・スイーツ付き♪  
日中、お仕事お疲れ様でした♪





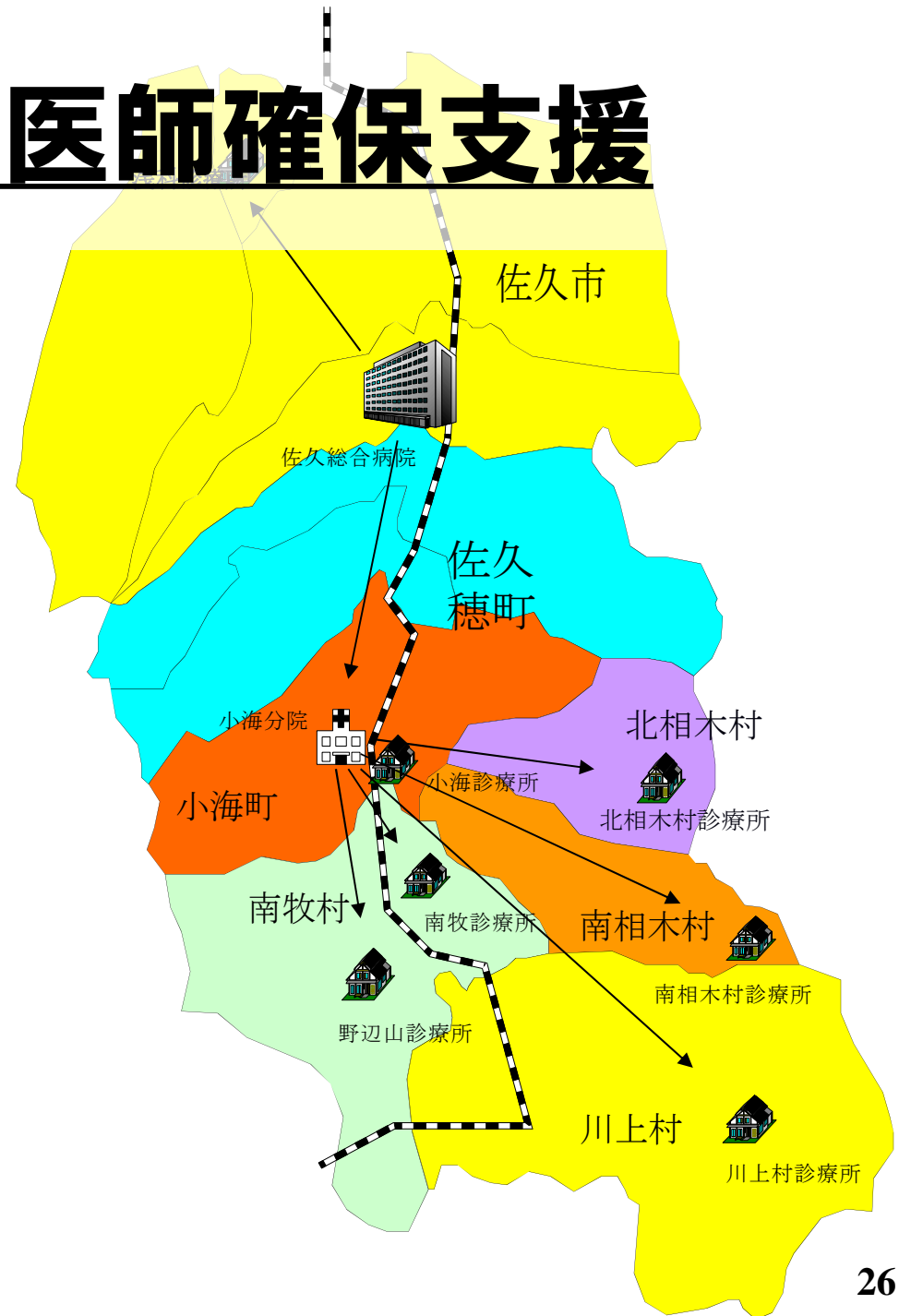
# 都市型医療圏



**地域の医療および介護機能との密接な連携が  
これからの急性期病院の役割！！**

# 地域における医師確保支援

- 佐久地域にある町村が国保診療所を設立するようになり、そこへの医師派遣を行うようになった。そのまま診療所に定着する医師もみられている。
- 若手医師は、第一線の診療所医療から高度な医療センターの専門医療まで経験しながら成長できる。
- 佐久総合病院は、農村地域における医師確保をキャリア支援と併せて行ってきた。





医療は民衆のものであり、  
民衆がつくるものである。

若月俊一 1910-2006